

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



10月号 発行 平成26年 10月31日



平成26年産米の全量全袋検査が始まりました！

9月11日(木)から、いわき市全域において、平成26年産米の全量全袋検査が始まりました。同検査は昨年引き続き、いわき市、生産者団体及び米穀事業者で構成する「いわき地域の恵み安全対策協議会」が、国が定める基準値(100ペクレル/kg)を超過した米の流通を防ぎ、消費者の皆様へ安心安全な米をお届けするために実施しています。

9月末現在、75,289点の検査が行われ、そのうち99.99%の75,283点が測定機器の測定下限値未満でした。また、6点が測定下限値を超える値で検出されましたが、国が定める基準値を超過したものはありません。

いわき市産の米を安心して消費者の皆様へ食べて頂けるよう、継続して検査を行ってまいります。

玄米(平成26年産)検査状況(9月末現在)

測定値区分 (単位:ペクレル/kg)	測定下限値 未満(<25)	25 ? 50	51 ? 75	76 ? 100	100 以上	計
検査点数 (点)	75,283	6	0	0	-	75,289
割合 (%)	99.99	0.01	0.00	0.00	-	100.00

平成26年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」のHP(<https://fukumegu.org/ok/contents/>)で簡単に検索できますので、ご確認ください。



平成26年度 福島県優良建設工事表彰式

9月10日(水)、福島市の杉妻会館において平成26年度福島県優良建設工事表彰式が行われました。

福島県優良建設工事表彰は、福島県農林水産部及び土木部が発注した工事のうち、前年度に竣工し、その出来ばえや現場の体制・創意工夫などの点において、他の模範となるような極めて優秀な工事を対象に表彰しています。

今年度のいわき農林事務所管内における農林水産土木工事においては、大久町の大久地区を施工した(株)水中組(久之浜町)が農道部門、田人町の綱木地区を施工した常磐開発(株)(常磐湯本町)が治山(災害復旧工事)部門において受賞しました。

大久地区は、農道整備のほか水路工や箱型擁壁工など複数工種にわたる複雑な工事であり、さらに宅地に隣接し用地に制約がある中で、工事を完成させたことが評価されました。昨年度で全長1,750mの全線が完成し、農業生産物流通の合理化などに寄与することが期待されています。


綱木地区は、標高差約140m、山腹面積1.48haの大規模な山腹崩落地の復旧工事でした。施工業者は、落石に対する事故防止対策としてネットを独自に施工し、さらに高所法面掘削機の提案により人力作業の軽減を図るなど、安全な施工に万全を期すとともに、作業効率の向上を図りながら早期に工事を完成させたことが評価されました。



(農道部門受賞 大久地区)



(治山(災害復旧工事)部門受賞 綱木地区)
(総務部)

「おいしい ふくしま いただきます！フェスティバル 2014」が開催されました

9月6日（土）～7日（日）、いわき市のアクアマリンパークにおいて、ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部及び福島県の主催で「おいしい ふくしま いただきます！フェスティバル2014」が開催されました。

このフェスティバルは、福島県内各地の豊かな農林水産物や名物料理、特産品など、ふくしまの「食の魅力」を県内はじめ全国へと発信する県内最大級の食の祭典イベントです。

オープニングは地元いわき市立平第三小学校吹奏学部の児童による演奏、そして主催者によるテープカットで幕を開けました。各ブースでは農林水産物等の販売などが、ステージ上では「おいしいふくしま〇×クイズ」や各種イベントなども催されました。

新生運動推進本部もブースを設置し、本県の農林水産業や農林水産物に対する理解を広めるためにパネル展示やアンケート調査を実施しました。また、新生運動として開設した「LINE@」の友だち登録に向けたPRやペットボトルを使ったプランターでの野菜体験を通して、お子さんを中心とした参加者に「農」に触れ合ってもらいました。

開催2日間で、来場者数41,000人、2日目の最後にはほとんどの商品が売り切れるなど大好評でした。お客様の反応も上々で「ふくしまの食が一度に堪能できて非常に良かった」等のお声をいただきました。



（オープニングのテープカットの様子）
（企画部）

全国植樹祭開催内定のPRが行われました

9月6日（土）、7日（日）の2日間、いわき市アクアマリンパークで開催された「おいしい ふくしま いただきます！フェスティバル2014」に、平成30年福島県での開催が内定した全国植樹祭をPRするブースが出展されました。

4年後に開催が内定した全国植樹祭は、東日本大震災と原子力発電所事故で甚大な被害を受けた福島県が、緑豊かなふるさとの再生を進めていく姿をアピールするシンボルとして位置付けられており、広く県民の方々にPRしていくこととしています。

ブースには、津波で被害を受けた海岸林再生の取組や各地の緑化活動などに関するパネル展示のほか、木工クラフト体験コーナーが設けられ、イベントに訪れた人たちが小枝をつかった動物づくりなどを体験しました。

2日間で予想を超える大勢の人たちがブースを訪れ、全国植樹祭開催に向けた大きな第一歩となりました。



（ブースの様子）



（木工クラフト体験の様子）
（森林林業部）



JAいわき市ねぎ部会総会が 開催されました

9月9日（火）、スパリゾートハワイアンズにおいて、JAいわき市ねぎ部会の総会が開催されました。

総会では、生育概況、販売経過の説明後、平成25年度事業報告と平成26年度事業計画が原案どおり承認されました。平成25年産秋冬ねぎは、10月の台風や2月の大雪等のため、管理作業に苦慮しましたが、部会員の努力により、前年比で販売数量102%、販売金額122%の好実績となりました。

また、昨年11月に、キリンビール（株）の「復興応援キリン絆プロジェクト」の支援を受け、ねぎドレッシングの開発や土詰め播種機を導入しており、今後は共同播種機の利用拡大により産地復興を進めていくことを確認しました。

総会后、タキイ種苗（株）秋山課長による「ねぎ栽培における緑肥の活用について」と題して、緑肥作物の効果についての記念講演がありました。



（記念講演の様子）

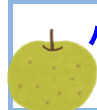


（土詰め播種機の共同利用）



ねぎドレッシング

（農業振興普及部）



小川幼稚園で梨の試食会と PRを実施しました

9月12日（金）、小川幼稚園において年長組の園児25名を対象に、JAいわき市梨部会の主催による「サンシャインいわき梨祭り」が開催されました。当日は、JAいわき市、全農福島郡山営農事業所、（株）平果、いわき市役所、いわき農林事務所が出席し、梨を通じて園児と交流を図りました。園児へのPRは今回が初めてであり、地元の子供たちへの食育を通じた「サンシャインいわき梨」の認知度アップを目的としています。

JAいわき市梨部会の松本部長は「おいしい梨ができたので、たくさん食べて大きく育ててください。」とあいさつし、梨「豊水」の2個パックを園児にお土産として手渡しました。

その後の試食会では、園児たちがとれたての大きな「豊水」を大きくほおぼって食べながら、「あまーい！」「おいしいーい！」という歓声が上がりました。おいしそうに食べる園児の笑顔を見て、部長を含む関係者の顔にも笑みがこぼれていました。また、試食会の途中に登場したいわき市農産物マスコットキャラクターの「なしポチ」に園児は驚き、「かわいい」と嬉しそうにふれ合っていました。最後に、記念として集合写真を撮影し、閉会となりました。



（園児へ梨「豊水」のお土産を手渡し）



（「なしポチ」との触れ合いに喜ぶ園児）

（農業振興普及部）



アワビ稚貝の放流

9月12日（金）から9月18日（木）にかけて、いわき市沿岸でアワビ稚貝4万6千個が放流されました。放流した稚貝は、大熊町にある種苗生産施設が使用できなくなったため、静岡県南伊豆にある国の施設に（公財）福島県栽培漁業協会の職員を派遣して育てたものです。

稚貝を付けた付着器（塩ビパイプを半分にしたもの）を、潜水により磯場に固定して放流しました。漁業者からは、「稚貝の活性が高く、直ぐに付着器から離れていった」等の声があり、数年後の漁獲に期待が膨らみます。

震災以前、いわきのアワビは「常磐もの」として高い評価を受けていました。現在は福島県の沿岸漁業は自粛中ですが、アワビについては、今年5月から試験操業が行われています。まだ、小規模ですが、本格操業に向けて一歩ずつ進んでいるところです。

震災以前は、いわきで漁獲されるアワビの約半分が放流した貝であり、アワビの資源は稚貝放流に支えられてきました。今回放流したアワビの稚貝数は震災前の1/10程度であり、本格操業に向けて、震災前の規模での放流が望まれています。



（付着器（緑色の粒がアワビ稚貝））



（潜水によりアワビを放流）
（水産事務所）



みんなで取り組む イノシシ被害防止対策 セミナーが開催されました

9月9日（火）、11日（木）、18日（木）の3回にわたり、市内3会場においてJAいわき市主催によるイノシシ対策セミナーが開催され、117名が参加しました。

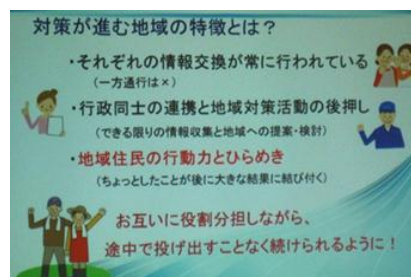
9月18日（木）のJAいわき市遠野支店のセミナーでは、講師の（独）農研機構東北農業研究センターの藤本研究員から、年間数万頭のイノシシを捕獲してもなお被害が減少していない西日本の状況と捕獲に偏る対策では限界があることの説明がありました。失敗しない被害防止対策としては、①農作物をきちんと囲う、②囲えない農作物をなくす、③田畑の近くのやぶを刈払うことが大切であり、電気柵の正しい設置方法を再確認するよう助言がありました。また、それでも被害が発生する場合に限り、捕獲が必要であると説明を加え、被害防止対策の進め方に注意を促しました。

また、県農業総合センターの木幡主任研究員から、地域ぐるみのイノシシ被害防止対策について県内の取組事例の報告がありました。個人の対策には限界があることから、①集落全体で取り組むとできることが増える、②集落の問題を整理すると具体的な対策を実施しやすく、行政支援も受けやすい、③そのためには被害の情報の蓄積と共有が重要であること等を学びました。

いわき農林事務所では、市、JAと連携し、効果的な被害防止対策のため、集落への支援を進めておりますので、ぜひご相談ください。



（セミナーの様子）



（スライドの一部）
（農業振興普及部）

**神棚 (Kamidana うるし) が
「グッドデザイン賞」を
受賞しました**

10月1日(水)、公益財団法人日本デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞2014が発表され、常磐下船尾町の(株)正木屋材木店の神棚(Kamidana うるし)が受賞しました。

御札がちょうど収まる大きさで、狭いスペースにも飾ることができるこの「神棚(Kamidana)」は、東日本大震災による避難生活で神棚がない住環境を嘆く被災者の声をきっかけに誕生しました。最近では、神棚がないという住宅も多いなか、現代のライフスタイルにマッチする新しい神棚のカタチとして注目を集めています。

今回受賞した「神棚(Kamidana うるし)」は、これまで販売されてきた「神棚(Kamidanaしろ)」を、より日本の伝統を引き継ぐ付加価値の高い商品として、伝統工芸「会津漆器」とコラボレーションさせたものです。

神棚神具関係がグッドデザイン賞を受賞するのは初めてとのことで、福島県のものづくりの技術の高さが認められたかたちとなりました。



(神棚 (Kamidana うるし))
(森林林業部)

**赤井小5年生元気いっぱい
稲刈りしました!**

10月1日(水)、いわき市立赤井小学校5年生児童58名による、田んぼの学校「稲刈り」が行われました。

田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが、『農業・農村地域の大切さ』や『環境の大切さ』、『食・命の大切さ』について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習の一環で、今回で第4回目となります。

5月23日(金)の田植えから約4ヶ月が経ち、稲は黄金色に輝く立派な実をつけました。今年は好天に恵まれ、例年より4、5日早い収穫となりました。

児童たちは、地元農家の方から「稲の根元から20cmぐらい上の部分を、鎌を持つ手の反対の手で持ち、斜め上の方向に刈り込むと刈りやすい」と説明を受けた後、持参した鎌を使って初めての稲刈りに挑戦しました。2人1組になって、稲を刈る人と刈った稲を束ねる人に分かれて作業し、1時間程で刈り終えました。「最初は難しかったけど、慣れてくると早く刈れるようになって楽しかった」と満足げに話す児童もいました。

刈り取った稲は、班ごとに8本の棒杭に積み上げ、自然乾燥させることにしました。

今回は、10月末に千歯扱きや足踏脱穀機など昔ながらの器具を使って脱穀を行い、11月にはいよいよ収穫祭を行います。



(1株ずつ刈っていきます)



(刈る人と束ねる人に分かれました)



(全て刈り終わりました!)
(農村整備部)

**平成26年産米の
全量全袋検査に係るいわき
地方検査業務研修会の開催**

9月11日（木）、19日（金）、JAいわき市本店において、平成26年産米の全量全袋検査に係る検査業務研修会を開催しました。

研修会には本年度から新たに全量全袋検査に従事する検査員38名が参加し、検査の趣旨や正しい検査方法等について理解を深めました。

いわき市には、9か所にベルトコンベア一式放射性物質検査器が配備されており、平成26年度も、いわき産米のより一層の信頼向上と安全・安心の確保のため、引き続き関係機関・団体の皆様と連携し、全量全袋検査を実施しますので、生産者皆様の御理解と御協力をお願いします。



（全量全袋検査業務研修会の様子）
（農業振興普及部）

**いわき仲買組合による
試験操業のPR活動**

9月20日（土）、仲買業者28社で組織されたいわき仲買組合は、道の駅「よつくら港」で開催された「よかっぺ市」に参加し、試験操業で漁獲されたメヒカリの唐揚げ（300人分）とヒラツメガニ・ガザミのカニ汁（400人分）の試食を提供しました。試食には、一般客のほか、四倉海岸での清掃イベントを終えた参加者も多数訪れ、11時から始まった試食は12時10分に終了するという盛況ぶりでした。組合長は「今後もイベントでのPR活動を行いたい」と意気込んでいました。



（カニ汁（左）とメヒカリ唐揚げ（右）の配布）
（水産事務所）

**いわき地方の農林畜産物
モニタリング検査結果**

福島県が行った、いわき地方の9月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

（表1）農林畜産物のセシウム検査結果（9月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
14品目	2品目（※）			16品目
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超過の検体	
26検体	8検体	4検体（4.1～64ベクレル/kg）	0検体	38検体

※：クリ、カボス

検査した16品目38検体のうち、14品目26検体において、放射性セシウムは検出限界値以下でした。内訳は（表2）のとおりです。なお、クリについては、11検体のうち3検体、カボスについては1検体のうち1検体が100ベクレル/kg以下で検出されました。

（表2）セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

パプリカ 1、キュウリ 2、キュウリ（施設）1、スダチ 2、ブドウ 1、サツマイモ 2、サトイモ 2、ナガイモ 2、ニンジン 2、菌床しいたけ（施設）2、菌床なめこ（施設）1、エリンギ 1、牛肉 2、原乳 5
--

9月30日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されている品目は、（表3）のとおりです。

（表3）出荷制限及び出荷自粛品目（9月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限（9品目）	野菜・根菜・芋類	—
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、たらめ（野生のものに限る）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛（1品目）	畜産物	—
	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、ご確認ください。

（企画部）



いわき花き鉢物研究会員が生産している季節の鉢花



いわき花き鉢物研究会員が生産している、様々な季節の鉢花を紹介します。

◇デュランタ◇ (クマツツラ科)

北米～南米原産の熱帯性の花木です。開花期は7～9月で、垂れ下がる花茎に青紫の花を房状に咲かせます。

分類上は常緑樹ですが、日本では秋から冬にかけての低温で落葉することが多いです。

暖地では生け垣として活用されることもあります。

熟すと黄色になる実も楽しめます。



(デュランタ)

◇チェッカーベリー◇ (ツツジ科) 別名「姫柑子」

北アメリカ東北部が原産地です。開花期は6～7月で、小さな白い釣り鐘型の花を咲かせます。

常緑小低木で、寒さに強く、霜に当たらなければ、冬の間赤みを帯びた葉と、赤い実を楽しむことができます。



(チェッカーベリー)

(農業振興普及部)

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(11月8日(土)、18日(火)、28日(金))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介するので、ぜひご賞味ください。

なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

また、営業日(メニューの実施日)については、事前にご確認ください。

◇スタンド割烹 みのる(いわき市佐糠町東)◇

- ・地産地消メニュー：炊き込みご飯、きのこのグラタン 等
- ・説明：いわき産の安心・安全な食材(お米(コシヒカリ)、エリンギ等)をふんだんに使用しています。

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
 - 2 イベント情報
 - 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表
- 「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース